

## 別紙 6-1 放射能濃度の簡易測定手順

### 1 使用可能な容器の種類

- (1) 丸型 V 式容器 (128mmφ × 56mmH のプラスチック容器。以下「V5 容器」という。)
- (2) 土のう袋
- (3) フレキシブルコンテナ
- (4) 200L ドラム缶
- (5) 2L ポリビン

### 2 事故由来廃棄物等を収納した容器の放射能濃度が 1 万 Bq/kg、50 万 Bq/kg 又は 200 万 Bq/kg を下回っているかどうかの判別方法は、次のとおり。

- 1) 事故由来廃棄物等を収納した容器の表面の放射線量率を測定し、最も大きい値を A ( $\mu\text{Sv/h}$ ) とする。
- 2) 事故由来廃棄物等を収納した容器の放射エネルギー B (Bq) を、下記式に測定日に応じた係数 X と測定した放射線量率 A ( $\mu\text{Sv/h}$ ) を代入して求める。測定日及び容器の種類に応じた係数 X を表 1 に示す。

$$\boxed{A} \times \boxed{\text{係数 X}} = B$$

- 3) 事故由来廃棄物等を収納した容器の重量を測定する。これを C (kg) とする。
- 4) 事故由来廃棄物等を収納した容器の放射能濃度 D (Bq/kg) を、下記式に事故由来廃棄物等を収納した袋等の放射エネルギー B (Bq) と重量 C (kg) とを代入して求める。

$$\boxed{B} \div \boxed{C} = D$$

これより、事故由来廃棄物等を収納した容器の放射能濃度 D が 1 万 Bq/kg、50 万 Bq/kg 又は 200 万 Bq/kg を下回っているかどうかを確認できる。

表 1 除去物収納物の種類および測定日に応じた係数 X

測定日	係数 X				
	V5 容器	土のう袋	フレキシブルコンテナ	200 <sup>リットル</sup> ドラム缶	2L ポリビン
令和 4 年 01 月 以内	4. 8E+04	1. 1E+06	1. 5E+07	3. 8E+06	1. 4E+05
令和 4 年 04 月 以内	4. 9E+04	1. 1E+06	1. 5E+07	3. 8E+06	1. 4E+05
令和 4 年 07 月 以内	4. 9E+04	1. 1E+06	1. 5E+07	3. 8E+06	1. 4E+05
令和 4 年 10 月 以内	4. 9E+04	1. 1E+06	1. 5E+07	3. 8E+06	1. 4E+05
令和 5 年 01 月 以内	4. 9E+04	1. 1E+06	1. 5E+07	3. 8E+06	1. 4E+05
令和 5 年 04 月 以内	4. 9E+04	1. 1E+06	1. 5E+07	3. 8E+06	1. 4E+05
令和 5 年 07 月 以内	4. 9E+04	1. 1E+06	1. 5E+07	3. 8E+06	1. 4E+05
令和 5 年 10 月 以内	4. 9E+04	1. 1E+06	1. 5E+07	3. 8E+06	1. 4E+05
令和 6 年 01 月 以内	4. 9E+04	1. 1E+06	1. 5E+07	3. 8E+06	1. 4E+05
令和 6 年 04 月 以内	5. 0E+04	1. 1E+06	1. 5E+07	3. 8E+06	1. 4E+05
令和 6 年 07 月 以内	5. 0E+04	1. 1E+06	1. 5E+07	3. 8E+06	1. 4E+05
令和 6 年 10 月 以内	5. 0E+04	1. 1E+06	1. 5E+07	3. 8E+06	1. 4E+05
令和 7 年 01 月 以内	5. 0E+04	1. 1E+06	1. 5E+07	3. 8E+06	1. 4E+05
令和 7 年 04 月 以内	5. 0E+04	1. 1E+06	1. 5E+07	3. 8E+06	1. 4E+05
令和 7 年 07 月 以内	5. 0E+04	1. 1E+06	1. 5E+07	3. 8E+06	1. 4E+05
令和 7 年 10 月 以内	5. 0E+04	1. 1E+06	1. 5E+07	3. 8E+06	1. 4E+05
令和 8 年 01 月 以内	5. 0E+04	1. 1E+06	1. 5E+07	3. 8E+06	1. 4E+05

※ 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構の協力を得て厚生労働省労働基準局  
安全衛生部労働衛生課電離放射線労働者健康対策室作成